

第6分野	入退院時の諸手続き (東・佐々木)
解説	入院しなければならない患者様の心理状態を理解し、わかりやすく必要最小限度のオリエンテーションを実施する事に努め、入院治療に望む患者様のサポートをする。 ・患者様にとって初対面である看護師とのオリエンテーションでの関わりは重要で、やり方によっては不安を増大させる事になってしまう。入院に際して患者様が持つ不安を知る事ができたら、その気持ちを大切にしながら安心を与える事を重点においた関わりをする事が大切である。 ・社会に戻る患者様の心理的な要因を理解し、退院後に必要な患者様の治療方針、生活上の留意点がスムーズに行われるようにアドバイスできる事が大切である。 ・退院後の外来診療において退院時の退院療養計画書、退院時サマリー、退院時要約が整理されている事が大切であり入院中の情報が把握できるようにしておく事が大切である。
	・入院するにあたり、患者様・ご家族ともに不安を抱えていることは当然である。その不安をできる限り少なくするためにも、入院時の説明は非常に大切である。 ・病院では「患者本位」という言葉を使いながらも、本来の意味で「患者本位」で入院説明が行われているか、考えてみる必要がある。 ・「患者本位」であれば、まず「・・・してください」とか「看護婦の指示に従ってください」等の指示的表現はありえない。現在自分が行っている入院説明の方法について振り返って考える必要がある。
	・患者本位の入院案内とは・・・？①きれい、見やすい、②看護師の仕事がよくわかる、③病院の機能や役割がよくわかる、④面会者も見ることができる、⑤絵や写真がある、⑥院内の生活が家族にもわかる、様なもの。 ・本当に患者本位に作られた入院案内のメリットは、①面会や各種手続きに関する問い合わせがなくなる、②面会時間が緩和される、③患者同士のトラブルがない、などの効果があった病院もあったようです。 ・わかりやすい入院案内を作るための視点は、①アメニティーを保証すること、②病院が提供できるサービスを明示し、利用者が活用できるものであること、③ホスピタリティーを保証できるものであること、④患者の権利が保証されるものであること。

	・実際の案内の内容としては、①サービスの内容を提供すること、患者の権利を明示すること、③料金がわかりやすいこと、④病院の理念、治療内容がわかりやすいこと、⑤患者の1日の生活が理解できるものであること。 ・決して、病棟規則や入院中の注意事項を並べ立てるような入院説明であってはならない。入院説明は、快適な入院生活を保証するものであるべきである。 ・また、わかりやすさと幼児言葉は全く違うものである。幼児言葉で説明するようなことは決してあってはならない。 ・患者様の入院直前の生活状況を知り、どのように入院生活に適応していくかを考える時間でもある事を忘れてはならない。
	・退院後のケアを効果的に継続するためにも、退院時のサマリーは重要である。つまり、患者様の入院期間中の看護経過とその結果を振り返り、現時点での患者様の全体像の変化を要約的に把握することで、次の看護の方向性を明確にし、改めて再確認、再準備し、看護を継続実践させることができる。 ・サマリーから描き出したいことは、①継続看護に取り組む上で、自分たちに何が期待されているか、②今、そして今後の看護の必要性は何か。 ・そのために必要な情報は、①その患者様はどのような人か、②その患者様の今の健康状態は、③その患者様のADLの自立の程度は、④その患者様の問題の解決状況は、⑤その患者様の今の認識の仕方は。
	・それらを具体的にまとめると次のようになる。①病気の症状や起こり方、入院の目的、②医師の所見ならびに治療方針と変化、③実施した検査・処置・与薬・注射の内容と結果、ならびにその所見、③病状の変化、④予後の見通し、⑤退院時処方、⑥入院前の患者様の疾患に関係している生活の特徴、⑦生活援助のポイント、⑧看護方針とその変化、⑨重点的ケアの内容と結果、⑩説明事項・退院時指導事項と患者・家族の反応。
例題1	入院時、患者様に対しての接し方のポイントを挙げて下さい。
回答	病院は患者様を最もよく理解し、必要な援助を与える場所である事を説明し、温かな受容的な態度で接し、安心感を持たせるようにする。初めて会った看護者の態度や言葉が、今後の治療に大きな影響をもたらす事を理解し、信頼関係を築けるように努力する。病状が激しく十分に入院を納得できていない患者様にも入院の必要性について説明し、納得して頂けるように努力する。
例題2	退院療養計画書を作成するときに検討されなければならないポイントは何か。
回答	①退院後の生活に対する本人の考え方と家族の考え方、②医師の治療方針、③通院・服薬を継続するための外来通院方法、④退院生活後予想される問題、⑤退院生活後使用できる社会資源、⑥余暇の過ごし方、⑦生活リズムを維持するための工夫、⑧退院後の生活のサポート者 これらを、医師、薬剤師、看護師、ソーシャルワーカー、作業療法士、心理士など複数の職種で検討する。可能であれば本人や家族にも参加してもらうのが望ましい。

例題3	患者本位の入院案内とはどのようなものか。
回答	①きれいで見やすいこと、②看護師の仕事の内容がよくわかること、③病院の機能や役割がよくわかること、④面会者も見ることができること、⑤絵や写真があってわかりやすいこと、⑥院内の生活が家族にもわかりやすいこと。
例題4	わかりやすい病院案内を作るための視点を書きなさい。
回答	①アメニティを保证するものであること ②病院が提供できるサービスを明示し、利用者が活用できるものであること ③ホスピタリティを保证できるものであること ④患者の権利が保証されるものであること
例題5	退院時サマリーの目的を書きなさい。
回答	患者様の入院期間中の看護経過とその結果を振り返り、現時点での患者様の全体像の変化を要約的に把握することで、次の看護の方向性を明確にし、改めて再確認、再準備し、看護を継続実践できる。
例題6	サマリーに必要な情報を具体的に書きなさい。
回答	①病気の症状や起こり方、入院の目的、②医師の所見ならびに治療方針と変化、③実施した検査・処置・与薬・注射の内容と結果、ならびにその所見、③病状の変化、④予後の見通し、⑤退院時処方、⑥入院前の患者様の疾患に関係している生活の特徴、⑦生活援助のポイント、⑧看護方針とその変化、⑨重点的ケアの内容と結果、⑩説明事項・退院時指導事項と患者・家族の反応。
例題7	初診時のメディカルインタビューの役割を書きなさい
回答	①情報収集 ②信頼関係の構築 ③インフォームド・コンセント ④治療的效果 ⑤患者教育
例題8	初診時メディカルインタビューにおける情報収集についてそのポイントを書きなさい
回答	初診時は、特に情報を効果的に得る必要がある。医療者が知りたい情報をインタビューするのではなく、患者・家族が話したいことを聞きながら、患者・家族を中心に必要な情報を得る、時には、話をもとに戻す、問いかける、というコミュニケーション技術を効果的に用いることが必要。
例題9	メディカルインタビューにおける信頼関係構築についてそのポイントを書き

回答	メディカルインタビューには、患者・家族の言語的表現の中に見られる感情に対応する役割がある。 医療者が患者・家族の感情に対応することで、患者・家族に「私たちの気持ちをわかってもらえた」「気持ちが楽になった」「この人ならば信頼できる」という感情がわく。 患者・家族が医療者と初対面の場合には、「この人は信頼できるのだろうか」と半信半疑の状態である。医療者の専門的な知識・技術・説明の能力や、自分たちの感情をわかってくれるかどうかで、「信頼する」「信頼しない」が決まってくる
例題10	メディカルインタビューにおけるインフォームド・コンセントについてそのポイントを書きなさい。
回答	インフォームド・コンセントとは、医療者が治療に関する情報を、患者・家族にわかりやすい言葉で説明し、患者・家族がわからなかったことを質問し理解することである。 インフォームド・コンセントが最終的に目指すところは、患者・家族が、得られた情報から自分たちでどのような治療を選ぶかを自己決定できることである。 インフォームド・コンセントは医療者側からの一方的な説明になってはならない。患者・家族が、わからないこと気にかかっている事、心配なこと、を医療者に問いかけることができるような対話でなければならない。
例題11	インフォームドコンセントで説明しなければならない治療に関する情報について書きなさい
回答	①医学診断 ②治療の必要性 ③入院の必要性 ④治療方法 ⑤治療の副作用 ⑥検査方法 ⑦入院期間 ⑧治療費 ⑨この治療を行わなかったときに生じる変化 ⑩その他の治療法
例題12	メディカルインタビューにおける治療的効果について書きなさい
回答	治療的効果の役割とは、インタビューによって、患者・家族の心配事、気がかり、不安を消し去ることである。 時には、患者・家族に行動修正を促すことで、問題解決したり治療的効果を表すことがある。 たとえば、①医療者と患者・家族の間に問題を引き起こすようなコミュニケーションのパターンに気づいて、それを修正する ②患者・家族が十分話をしてこなかった場合は、話す時間を持つようにする、など
例題13	メディカルインタビューにおける患者教育においてどのような教育的情報を提供するのか書きなさい

回答	①薬物の服用方法 ②日常生活でどのように休息をとればよいか ③家族は患者にどのように対応すべきか など 大切なことは、患者の話をまず聴くことである。そして、患者が価値を置いている生活パターンを「保証」することである。 医療者の考えだけに基づいて患者教育しても、効果はない。患者・家族が自己決定できるように情報提供することが、真の患者教育である。
----	---